Juliette Low Seminar 2015

～ Dream, Dare, Do ～

2015/02/09 - 02/14

ジュリエット・ローセミナー 2015

ガールスカウト神奈川県第 79 団　石塚　咲

＜事業概要＞

事業名	Juliette Low Seminar 2015 2015年　ジュリエット・ロー セミナー
主催	ガールガイド・ガールスカウト世界連盟 (WAGGGS)
期日	2015年2月9日（月）～14日（土） 6泊7日
会場	サンガム　ワールドセンター（インド・プネー）
テーマ	Dream, Dare, Do
目的	ガールガイド・ガールスカウトの若い女性会員が国際的なリーダーシップを身に着けること。
使用言語	英語
対象	おおよそ20～30歳のガールガイド・ガールスカウト連盟の会員

＜参加国＞ 45 カ国　48 名（開催国のインドからは 3 名が参加）

アフリカ地域（13カ国）	
1	コートジボワール
2	ガンビア
3	ガーナ
4	ケニア
5	レソト
6	マダガスカル
7	ナミビア
8	ナイジェリア
9	ルワンダ
10	南アフリカ
11	タンザニア
12	ザンビア
13	ジンバブエ

アラブ地域（3カ国）	
1	ヨルダン
2	レバノン
3	チュニジア
4	アラブ首長国連邦

西半球地域（3カ国）	
1	アルゼンチン
2	カナダ
3	アメリカ

アジア大平洋地域（12カ国）	
1	オーストラリア
2	バングラディッシュ
3	香港
4	インド
5	日本
6	韓国
7	マレーシア
8	ニュージーランド
9	フィリピン
10	シンガポール
11	スリランカ
12	台湾

ヨーロッパ地域（14カ国）	
1	デンマーク
2	フィンランド
3	フランス
4	ギリシャ
5	アイルランド
6	イタリア
7	ルクセンブルク
8	オランダ
9	ノルウェー
10	ポルトガル
11	スロベニア
12	スウェーデン
13	ウクライナ
14	イギリス

＜参加準備＞

＜事前学習として読んでいったもの＞
・過去の世界会議報告書
・過去のジュリエット・ローセミナー報告書
・WAGGGS リーダーシップ開発プログラム／リーダーシップ育成セミナー報告書
・ガールスカウト活動情報誌　Girl Scouting
・ガールスカウトマガジン　Olave
・女の子はもっと伸びる　未来を担う少女たちに今必要な力と環境
・Be The Change

＜WAGGGS からの事前課題＞
・GLOW（WAGGGS のイーラーニング）のジュリエット・ローセミナー参加者ページへの登録
・i-lead（GLOW のリーダーシッププログラム）の受講

＜準備したもの＞
・日本連盟からのギフト
・スワップ
→　日本連盟の織りネーム、団のワッペン、クラフト、ガールスカウトカレンダーなどを用意
・袋菓子、せんべいなどの食品
→　WAGGGS から特に事前の連絡はなかったが、インターナショナルフェア用に。
・浴衣
→　これも WAGGGS から事前の連絡はなかったが、インターナショナルフェア用に。民族衣装に加え、ユニフォーム外にもう一着フォーマルな洋服（ワンピース、ジャケットなど）を持ってきている参加者も多かった。
・Save Our Pool（サンガムのプール改修のためのプロジェクト）へのファンド
→　神奈川県連盟、団で寄付を募らせていただき持参することにした。
・名刺
・PR グッズ
→　Stop The Violence キャンペーンの My Voice シート

＜プログラム＞

	0日目	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目
	2月8日（日）	2月9日（月）	2月10日（火）	2月11日（水）	2月12日（木）	2月13日（金）	2月14日（土）	2月15日（日）
テーマ		Dream		Dare		Do		
7:00-8:25	参加者到着	ヨガ／プール	ヨガ／プール	ヨガ／プール	ヨガ／プール	ヨガ／プール	ヨガ／プール	ヨガ／プール
8:25-9:00	参加者到着	朝の集い 朝食	朝の集い 朝食	朝の集い 朝食	朝の集い 朝食	朝の集い 朝食	朝の集い 朝食	朝食
9:00-9:30		オープニングセレモニー	リフレクション	リフレクション	リフレクション	リフレクション	リフレクション	参加者解散
9:30-10:30		イントロダクション	”リーダーとしての私” リーダーシップレース	”チャレンジする” コンフォートゾーンの 探検	"Be the change"体験 コミュニティパートナー 訪問	変化をもたらす行動 （マーケットプレイス）	私のリーダーシップの 旅路	
10:30-11:00		ティーブレイク		ティーブレイク		ティーブレイク	ティーブレイク	
11:30-13:00		WAGGGSのリーダー シップの理解		"チャレンジする” コンフォートゾーンの 探検		変化をもたらす行動 （マーケットプレイス）	アクションプラン作成	
13:00-15:00		昼食		昼食	昼食	昼食	昼食	
15:00-16:30	サンガムツアー	新しいリーダー	振り返り	”イノベーションと ヴィジョン −チャレンジを通じて−”	振り返り	変化をもたらす行動 （マーケットプレイス）	アクションプラン作成	
16:30-17:00	ティーブレイク	ティーブレイク	ティーブレイク	ティーブレイク	ティーブレイク	ティーブレイク	ティーブレイク	
17:00-18:30	散策	自分を知る	異文化リーダーシップ	”Be the change"への 準備	変化をもたらす行動 （導入）	変化をもたらす行動 （マーケットプレイス）	評価	
18:30-20:00	夕食	夕食	夕食	夕食	フリーナイト	夕食	夕食	
20:00-21:00	アイスブレイク	サンガム ウェルカムセレモニー	WAGGGSゲーム	インターナショナル フェア		ドキュメンタリー鑑賞	クロージングセレモニー キャンプファイヤー	

＜プログラム報告＞

0 日目（セッションは翌日から開始のため）2 月 8 日（日）

プログラム名：Sangam Tour （サンガム施設ツアー）
目的 : 参加者がサンガムの歴史や施設を知り、参加者がより快適に、安全に過ごせるようにするため。
内容・手法 サンガム　ワールドセンターは、1966 年にオープン。 サンガムはサンスクリット語で「ともに進む」という意味。サンガムボランティアが、サンガムの敷地内の設備を説明してくれた。 白いアーチ型の屋根が特徴だが、エントランス側の 4 の屋根は既存の 4 つのワールドセンターを、3 つは「やくそく」を、10 つは「おきて」を意味している。
感想： 施設はスタッフやボランティアによってきれいに手入れをされていて、とてもアットホームな場所だった。

プログラム名：Neighborhood Walk（サンガム周辺散策）
目的：現地の人の暮らしや文化を知る。
内容・手法： 小さなグループに分かれ、サンガムボランティアの案内のもと、付近を散策した。 ・マハシュトラ州の公用語はマラティ語。 ・サンガムのスタッフとして働いていた女性のお宅に入れていただき、料理で使われるスパイスを見せていただいた。 ・ヒンズー教の寺院のほかに、モスクもある。
感想： ほんのわずかではあったが、人々の暮らしや文化を垣間見ることができた。 ヒンズー教の寺院やスパイスのにおい、たくさんの車やバイクが行き交う忙しい道路を見て、インドに来たということを改めて実感した。

プログラム名： Ice Break, Team Building　（アイスブレイク、チームビルディング）
目的：セミナーを共にする参加者同士が交流する。
内容・手法： サンガムスタッフも加わり、アイスブレイクをした。 ・人探し 「左利きの人」「Déjeuner（フランス語で昼食）の意味が分かる人」「すしを食べたことがある人」「3 人兄弟の人」など、紙に書かれた事柄に当てはまる人を、時間内にできるだけたくさん探す。見つけたら挨拶をして、名前をリストに書き込んでいく。 ・整列ゲーム 1 グループ（10 人ほど）が地面に貼られたテープの上にまっすぐ一列に並ぶ。

指定されたお題に従って（年齢順、身長順など）グループの中で列を作り直す。 ただし、テープから足を踏み外さないように工夫しなくてはならない。
感想： 参加者はまだ全員集合していなかったが、アイスブレイクをしながらコミュニケーションをとることで、リラックスしながら参加者同士が親睦を深める良い機会となった。 本当にあっという間にすぐに仲良くなれるのが、ガイド・スカウトの仲間の良いところだと改めて感じた。

1 日目　2 月 9 日（月）

プログラム名：Opening Ceremony （オープニングセレモニー）
目的：セミナーを開会する。
内容・手法： ・参加国の旗入場 ・サンガムソング
感想： セレモニーといってもとても簡単なものであったが、45 の国旗がサンガムのホールに集結する様子を見て、いよいよセミナーが始まる心構えになった。

プログラム名： Expectation and Introduction（オリエンテーション、イントロダクション）
目的：参加者がセミナーの趣旨、WAGGGS のリーダーシップ開発プログラムについて理解する。
内容・手法： ・パワーポイントを見ながら、WAGGGS のリーダーシップ開発プログラム／WLDP (World Leadership Development Program)やリーダーシップに関する概要のレクチャー。 ・WLDP の特徴的な 4 つの要素： 価値観、ノンフォーマル教育、世代間共有、異文化理解 ・WLDP の手法： Connect（つながる）、Extend（広げる）、Challenge（挑戦する）、Act（行動する） 本セミナーはまさに WLDP を学ぶ恰好の環境である。 ・セミナーのテーマ”Dream, Dare, Do”について： （1999 年にアイルランドで開催された世界会議のテーマでもある。） セミナーのセッションは 3 構成になっている。 Dream : リーダーシップについての学びを通じて、自分自身について考える Dare : アクティビティに取り組む、解決策を探る

Do：セミナーを通じ得たことを、自分自身のアクションプランとして形にしする、行動を起こす

・マンダラ（セミナーのテーマロゴ）について：
ヒンズー教や仏教の世界観を象徴的に表した宗教的なシンボル。西欧では自分自身の内面を表現するアートとしても考えられている。

・ひとりひとりにリフレクション用ノートと、立体のマンダラが配られる。
ノートはリフレクション、セミナーで感じた自分自身の思いや考えを書き記しておくため、マンダラは、自分自身の思いを表現するためのツールとして。

・セミナーに期待すること
パトロールに分かれて、セミナーへ期待すること、参加動機など、自己紹介を交えて意見交換した。大学を卒業して、自分の自由な時間ができたため自分自身を見直すきっかけとして、連盟で国際コミッショナーやプログラム開発を担当している参加者、連盟レベルでもっと若い女性の声をアピールできるような取り組みをするため、など皆それぞれの立場でセミナーに参加して何かを持って帰ろうという気持ちにあふれていた。

パトロール編成は地域がバランスよく分散するように、ファシリテーターが事前に決めていた。私のパトロール「ラール」（ヒンディー語で赤の意味）は、インド、UAE、オランダ、アイルランド、ナイジェリア、ジンバブエ、日本の 6 人）

感想：
少し緊張しながらも、いよいよセミナーの始まりを迎えた。
オリエンテーションの中で、サンガムの副マネージャーが話をしてくれた。彼女は過去の JLS に参加しており、彼女にとってセミナーがどんなに貴重な体験で、人生において重要なターニングポイントとなったかを話してくれた。（自分の進路に違和感を抱いていた彼女は、セミナーに参加して自分自身を見つめなおすことで、思い切って進路を転換したそうだ。）
自分にとっても、今回の経験が、自分自身に影響を与えるような有意義なものにしたいと、改めて身が引き締まる思いがした。

プログラム名：New Leader （新しいリーダー）

目的：現代のリーダー像、その特徴や共通点について考える。

内容・手法：
・2 種類の小さな紙（20 枚程度）が配られる。
1) 政治、ビジネス、エンターテイメントなど様々な分野の著名人の名前を記した紙
2) それぞれの人物の名言を記した紙
3) 年代
発言者と名言、年代をパズルのように組み合わせる。

例）老子、マハトマ・ガンディ、スティーブ・ジョブス、レディー・ガガ、マララ・ユスフザイなど

“I raise my voice not so that i can shout, but so that those without a voice can be heard”	Malala Yousafzai	2000-2015

・ケーススタディ

最近世界で起こった出来事の記事を読み、以下の内容についてグループで話し合う。

1) 誰が行動のリーダーか？
2) このリーダーの要素とは？
3) どのような行動が生まれたか？

記事の内容：

a. フランスの”Je suis Charlie”キャンペーン
b. パキスタンの人権活動家、マララ・ユスフザイ
c. フィリピンのローマ法王訪問
d. 国連気候変動会議

共通意見として、（(1）の問いに関してはそれぞれだが）以下のような意見が挙げられた。

1) 信念、勇気や自信を与える、思いや考えを行動に移す、行動を広めるネットワークを持つ、革新的、効果的なコミュニケーション手段
2) 非政治的なリーダーが発生、多くの人を動員した、コラボレーション（メディアなどの媒体)、リーダーシップの共有

プログラム名：My Value （自分を知る）

目的：自分自身が大切にしている value を知り、理想のリーダー像を構築、共有する。

内容・手法：

・導入”Value”とは？

集団内や個人で強く信じられており、それぞれの行動の基礎となるような原則や考え方。（Skill とは異なる）

例えば、ガールガイド・ガールスカウトの「やくそく」「おきて」の中の value とは…？

誠実さ、他者への信頼、尊敬の念、かかわりなど

・自分の理想のリーダー／そうでないリーダーの（ここで述べられるリーダーは、ガールスカウトのリーダーには限定されない）value を知る。

例）

理想のリーダー	理想でないリーダー
・周囲に配慮できる	・寛容でない
・コミュニケーション能力がある	・協調性がない
・君主的でない	・権力をふりかざす

↓

自分が身に着けたいと思っている value

上のように、紙に書くことで、自分がどんなリーダーにあこがれているか、
どんな value を持ちたいと思っているかを明確にする。

・リーダーとして、一番伸ばしたい value とは？
パトロールごとに Top 10 をイラストにまとめる。

1. インスピレーションを大切にする
2. 信念がある
3. コミュニケーションを大事にする
4. 信頼できる
5. 考えや物事を分析することを重視
6. アドボカシーを実践
7. 親しみやすさ
8. 率直で、分け隔てがない
9. 知識豊か
10. 傾聴する

など…

感想：
リーダーシップに関するセミナーは日本でも経験があったが、国内の研修とはまた違って、パトロールの中だけでも様々な意見が出たのが非常に新鮮であった。

プログラム名：Welcome Ceremony （サンガム式ウェルカムセレモニー）
目的：参加者がサンガムに迎え入れられる。
内容・手法： ・インド式のセレモニーで、参加者を歓迎。 ・ソングの合唱
感想： サンガムではイベントがあるごとに、このようなウェルカムセレモニーが行われるそうだ。それぞれの連盟のユニフォームの参加者がホールに集うのを見て、改めて国際的なイベントに参加するという貴重な機会をいただけてよかったと思った。

2 日目　2 月 10 日（火）

プログラム名：Me as a leader - Leadership Race around Pune – （リーダーとしての私 —リーダーシップレース—）
目的：グループでの行動を通じて、インドの文化やリーダーシップを体験しながら学ぶ。
内容・手法： ・3 人ずつのグループ（できるだけ異なるパトロール、ドミトリー、地域のメンバー）で、プネー市内を探索。 ・グループごとに課題の書かれた紙（行くべき場所の写真と、目的地でのミッション）数枚と、地図、交通費、昼食代として 1 人 30 ルピーが渡される。 ・出発前に、グループの中で、このセッション中の観察対象を決める。（それぞれ誰を観察しているかは秘密。） 私はフィンランドのイルミとインドのムルドゥラとグループになった。 ごく自然なことだが、ムルドゥラが地元の人に道順を聞いてくれたり、質問をしたりしてくれたという面からいえば、彼女がリーダーシップをとって私たち 2 人を引っ張ってくれたのは間違いない。 時間も限られており、途中で迷子になったり、道順を変更したりを繰り返し、思ったほど沢山の課題には取り組めなかったが、結果的には、「宮殿で誰かにインタビューをする」「駅で次にムンバイに向かう鉄道の時間を調べる」「牛の鳴き声を動画に撮る」3 つの課題に取り組んだ。 昼食を手に入れるために、1 人 30 ルピー（およそ 50 円）、3 人合わせて 90 ルピーを持っていた。90

ルピーもあれば、何かおいしいものが食べられる！と（少なくともイルミと私は）期待しており、ムルドゥラがお店を決めて、小ぎれいなインディアンレストランに入った。
メニューを見ると、1 品 200 ルピー程だったので、1 人 30 ルピー分の量を出してくれないかとお願いしてみたが、断られてしまった。
仕方なく、他を探すことになった。駅前ならたくさんお店があるだろうと、いくつか覗いてみたものの、なかなか予算に見合ったところがない。最終的に、スナックやお菓子、飲み物が売っている商店のようなとろに行った。
1 つ 12 ルピーの小さなパンと、コロッケのようなものを食べた。半日暑い中歩き回ったのに、お腹を満たすことができず、がっかりしてしまった。
なぜファシリテーターが一人 30 ルピーしか渡してくれなかったのか。貧困の一つの指標として、1 日 1.25 ドルを「貧困ライン」と国際的に定められているが、30 ルピーが 1.25 ドルで生活する場合の、1 食分の食事の値段に相当するからである。（グローバルアクションテーマの「一緒になら、極度の貧困と飢餓をなくせる」に該当）

感想：
私のグループでは、意見が共有され、どこに行くか、何をするかの意思決定がメンバー全員で行われて、（よく迷子になったので、決してスムーズとはいかなかったが）終始とても和やかな雰囲気だった。
誰をグループのリーダー、と決めたわけではないので、3 人それぞれが自分のできる役割を果たしていたように思う。
少し外に出て、プネーの街や、人々の暮らしを知る良い機会にもなった。

プログラム名：Me as a leader （リーダーとしての私 リーダーシップレースの振り返り）

目的：リーダーシップレースのアクティビティで得たことや感じたことを参加者同士で共有する。

内容・手法：
パトロールで次のポイントについて振り返ってみる：
・グループの意思決定のプロセスで大切にしたこと
・グループのほかのメンバーを観察して気づいたこと
・グループ内のリーダーシップ行動の特徴
→協力、メンバーを勇気づける言動やふるまい、コミュニケーション、協調

感想：
先の感想にも述べたが、私たちのグループでは、誰かを特定の「リーダー」として決めもしなかったが、3 人がお互いの意見を尊重し合って、調整しながら和やかに過ごすことができた。ただしこれがもっと大人数のグループで、さらには色々な地域や国のメンバーがいればいるほど、リーダーなしにはグループを機能させるのは難しくなるだろうと思った。

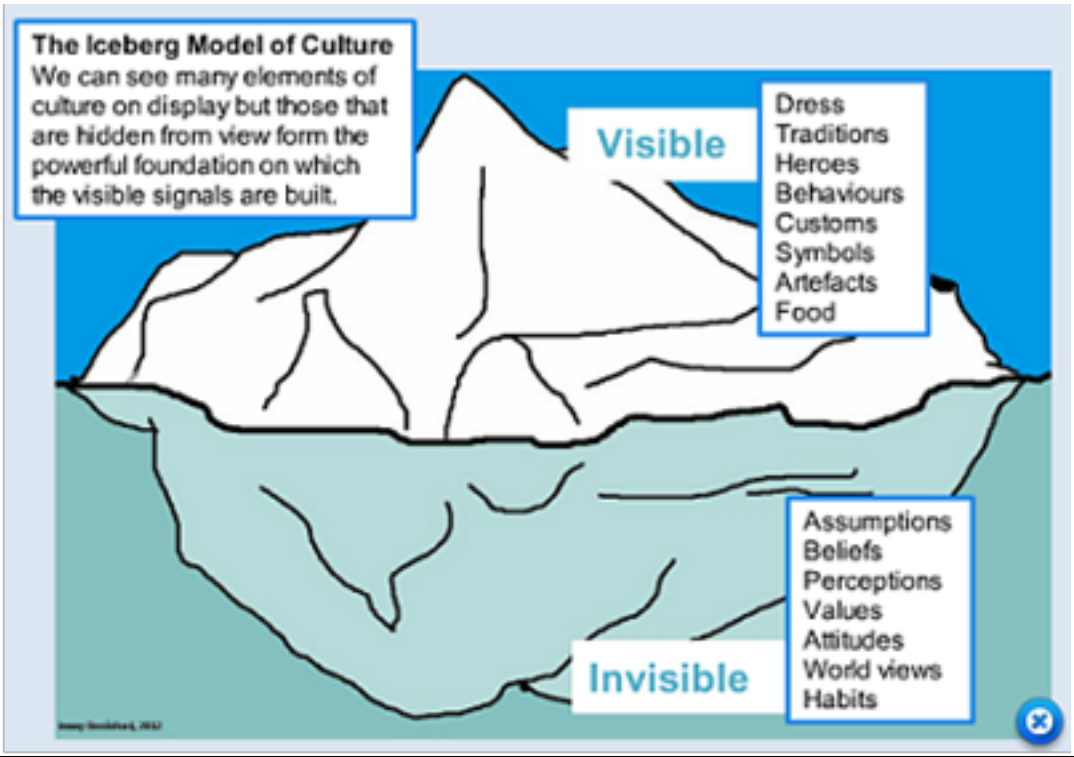
プログラム名：Cross Cultural Leadership （異文化リーダーシップ）

目的： 多文化環境におけるリーダーシップに関して考え、理解する。

内容・手法：
・Culture とは
人間の生活様式の総体で、それぞれの民族・地域など、それぞれ固有のものがある。多文化の中では、さまざまなお互いの文化の要素が混ざり合って、くもの巣のように絡み合っている。
・Culture Iceberg （異文化の氷山のモデル）について
文化には、見たり触れたりできる部分(Visible)と、抽象的な部分(Invisible)がある。
1. 見える文化：衣食住などの習慣、伝統、ふるまい、ことば、象徴など
2. 見えない文化：信念、価値観、社会規範、信念、世界観など

氷山の見える部分がごく一部であるように、文化も見えない部分が見える部分よりも大きい。
自分の文化と違う文化に出会ったとき、「見える文化」だけで、相手のことを判断しがちだが、
見える文化の根本には、「見えない文化」があり、この部分を理解しようとして、コミュニケーションを図ることが大切である。

参考）異文化の氷山モデル：WAGGGS i-Lead, Communication Across Culture より



感想： 文化の違いというよりも、個人的な性格によるところも大きいと思うが、アフリカ、ヨーロッパ、アラブの参加者は非常に頭の回転も速く、おしゃべりも大好きで、私はパトロールでなかなか意見を言えずに、やっと自分の番、さて話し出そうか、とすると意見交換の時間が終わってしまうことが何度もあった。 氷山の海面下、見えない文化の例を出し合っている際、一例として、「日本人はあまり意見を積極的に言わない人が多い。そうすることによって、相手を尊重したり、その場の空気を読んでいるから」という話をしたところ、「それならあなたが意見を言えるような雰囲気にしないとね」という反応があった。 このようにして、皆それぞれ違う文化を持つメンバー同士で何かを遂行する時、この概念を理解することが非常に重要だと感じた。

プログラム名：WAGGGS Game （WAGGGS ゲーム）
目的：夜のレクリエーション。WAGGGS やサンガムに関する知識を問う。
内容・手法： ・ドレスコード：尊敬する女性 ドレスコードを聞いたのは夕食前。誰も特に事前準備をしてサンガムには来ていなかったので、皆思い思いの格好で参加。 ・会場設定：セミナーから、”WAGGGS Region”に向かう飛行機の中。 パトロール対抗で、WAGGGS やサンガムに関係する内容のクイズ大会で交流した。

3 日目　2 月 11 日（水）

プログラム名：Reflection （リフレクション）
目的：振り返り
内容・手法 前日のセッションを踏まえて、以下の質問に対する答えをノートに記録する。 自分自身がセッションで感じたことを振り返るために、毎朝セッションの前にリフレクションの時間が設けられた。 ・異文化環境の中で、どんなリーダーシップを発揮したいか。 ・自分のなりたいリーダーになるために、どのようなリーダーシップ（スキル、知識、価値など）を得たい／強化したいか。
感想： リフレクションの時間が都度あったのは、自分の考えや感じたことを整理するためにも非常にいい機会になった。

プログラム名：チャレンジする（Take on the Challenge – exploring the comfort zone -)

目的：それぞれのコンフォートゾーン（快適域）を抜け出して、新たな出来事に取り組むことを通じ、参加者を勇気づけ、“チャレンジする”ことに対するモチベーションを与える。

内容・手法：

Comfort Zone（コンフォートゾーン）について：

ファシリテーターからの質問

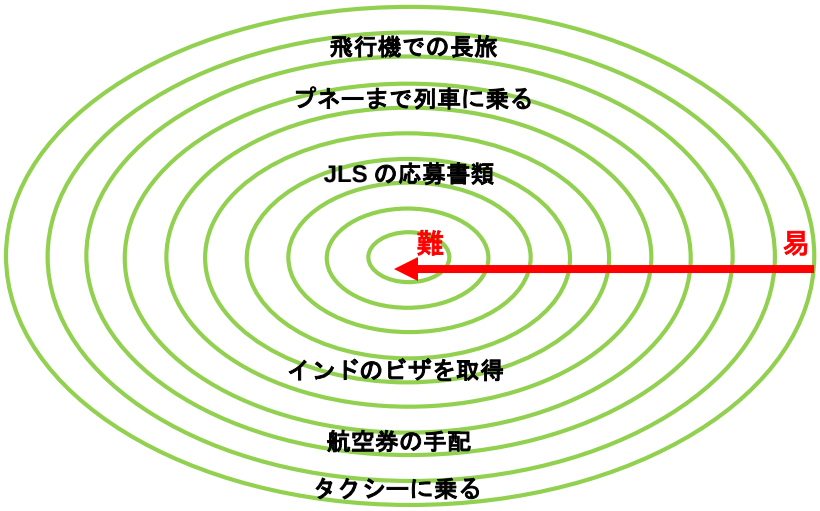
「セミナーに参加するために、サンガムにたどり着くまでのチャレンジは？」

参加者からの答え

・参加志望書を書いたこと
・ビザを取るために大使館に通ったこと
・インドまでの航空券を手配したこと
・荷物を持って、空港にいくために夜中にタクシーをつかまえたこと
・飛行機の長旅
・ムンバイからプネーまで列車に乗ったこと

これらのチャレンジは、どれくらい困難なことだったか、十重の円の中に、レベルを表してみる。（中心に行くほど、ハードルが高い）

例）



中心に行けば行くほど、自分にとって困難が伴う。

何か新しい出来事に直面することは、勇気が必要。

しかしながら、困難や恐怖、ストレス、プレッシャーに直面するかもしれないけれど、新たな行動を起こすためには、自分のコンフォートゾーン（現状）を抜け出すことは非常に重要である。

・アクティビティ”Exploring the comfort zone”

個人で取り組むアクティビティ。

表に 39 のタスク、裏に十重の円が描かれたシートが配布される。

取り組んでみようと思うタスクが、自分にとって十重の円のどこに位置するか、書き込んでみる。
タスクの例）
・ウォータータワーの頂上から、命綱だけを使って壁を下る。
・Vishrantwadi（サンガムから徒歩で約 15 分のところにあるコミュニティ）まで路線バスで行き、戻ってくる。
・ドミトリーのシャワーの排水溝の掃除
・縄梯子で木に登る
・昼休みまで誰とも口を利かない。喋ること以外のコミュニケーション手段を見つける
・プールにできるだけ長く潜る
・ステージの上で、サンガムソングをラップで歌う
・昼休みまで化粧を落として過ごす
・10 分間止まらずに走り続ける
・動物（ヘビ、鳥、牛）に触る
・サンガムの外で、3 種類のお菓子を買って食べてみる。
・目隠しをして、サンガムスタイルのテーブルセッティングをする
・仲たがいした相手に、謝罪の手紙を書く
・10 人とハグをして、相手の文化におけるハグについて尋ねる

できるだけ時間をゆっくりと取り、一つ一つのタスクについて振り返りをしながら取り組む。個人のアクティビティ、Personal journey なので、個人で取り組むこと。

感想：
私はこの中から、排水溝の掃除、ウォータータワーの壁下り、動物へ触る、バスで Vishrantwadi まで出かけることなど、6 つのタスクにチャレンジした。
ひとつひとつのアクティビティはとてもシンプルだけれども、苦手意識のあるものに取り組むことは、やはり気が進まない（やり遂げられるか不安である、恐怖心がある）し、それなりの勇気が必要だった。
しかしながら他の参加者が恐る恐る取り組む姿を見ることで、こちらも勇気をもらって、やってみようという気持ちになるし、個人のアクティビティではあったが、他者の行動に感化され、刺激されるような瞬間が何度もあった。
自分のコンフォートゾーンの中にいるのは安心なことだけれど、その中から思い切って抜け出してみることで、自分を成長させる一歩になるということが簡単に実感できるアクティビティだったので、自分がリーダーシップに関するプログラムをする際などにも、ぜひ実践してみたいとも感じた。

プログラム名：Innovation and Vision - thorough the Challenge –
（イノベーションとビジョン —チャレンジを通じて—）

目的：さまざまな状況の中で、変化をもたらすためにはどのようなアプローチが必要か、ある物語を通じて考える。

内容・手法：

「チーズはどこへ消えた？」のビデオ鑑賞：

スペンサー・ジョンソン著書、1999 年全米ビジネス本のベストセラーで、日本でも 2000 年に日本語版が発売され、話題になった本の動画版。

あらすじ）ある国に 2 匹のねずみと 2 人の小人が住んでいて、彼らは毎日自分たちのチーズの山を探していた。ねずみのスニフとスカリーは、あちらこちらを走り回って、小人のヘムとホーは、経験や教訓をもとに、戦略を練ってチーズを探していた。

ねずみも小人もチーズの山を見つけて、満足して過ごしていると、ある日突然、チーズがなくなっていた。

2 匹のねずみは日々チーズが減っていることに気づいていたので、気持ちをすぐに切り替えて、新しいチーズの山を探しに行った。一方で、2 人の小人は、チーズがなくなったことに狼狽し、すっかりやる気をなくしてしまった。

何もしないで嘆くより、現状を変えようとおもったホーは、新しいチーズの山を探しに行こうとヘムに提案するが、ヘムは聞き入れなかった。

ホーは新しいことをするのは怖い、と思いながらも、乗り越えて、ついに新しいチーズを発見する。

2 匹のねずみの行動はとてもシンプルで、チーズがなくなれば、次の場所へ移る。（自分のまわりの状況を変えることを厭わない）必要以上に物事を分析せず、すぐに行動に移すことができる。一方小人は物事を複雑に考えすぎて議論に時間を費やし、柔軟に対応できず、状況を変えることに抵抗がある。

ファシリテーターからの質問：

1. Challenge（ここでは困難、課題と解釈）に直面した時、登場人物はどんな風に反応したか。
2. チーズが突如なくなる出来事を、登場人物はどんな風にとらえたか。
3. どんなイノベーションを目の当たりにしたか。
4. また、彼らに何がおこったか。
5. それぞれの登場人物は、変化をどのようにとらえているか。
6. 自分が一番似ている登場人物はだれか。
7.

質問を踏まえて、以下のように登場人物を分類した。

ヘム	スニフ
過去の栄光に執着 他人を責める 状況の変化に対応できない	素早い行動 直観的に行動する 変化を前向きに捉える

ホー	スカリー
変化を恐れている 最初は変わることを拒むが、最後は自ら行動を起こす。	素早い行動 目的にむかって一直線 直観的に行動する

Innovation（変革）とは：
・新しいアプローチ
・夢を実現させる手段
・創造性
・既存の考え、常識にとらわれない思考や手段
Vision とは：
・目標
・未来の展望
・方向性を明確にするもの

物語からも読み取れるように、現状に変革をもたらすためには、行動を起こすことが必要。また、チャレンジを成功させるためには、目指すべき方向性を明確にすることが大切である。
しかしながら、変革をもたらすために、行動を起こすことは勇気が必要なことである。
再びファシリテーターからの質問：
「もしおそれるものがなかったら、どんなことに挑戦したい？」
参加者ひとりひとりが、自分のビジョンを布に書き記し、中庭に出て、一人ずつ発表をした。思いを書き記した布は、セミナー中ずっと見えるところに飾られた。

参考）
・「チーズはどこへ消えた？」
著者：スペンサー・ジョンソン　翻訳：門田美鈴
出版社：扶桑社

感想：
自分にとってこのセッションはセミナーの中でも、もっとも印象的なセッションの１つだった。
以前はもっと自分の行いや考えを、自信を持って他人に説明したり、行動に移すことができたが、年齢を重ねるにつれて、様々な経験をする中で、周囲の人の反応が気になったり、自分を過小評価したり、消極的になった自分がいることに気づいていた。物語の登場人物に例えるならば、変化を恐れて動けなくなっている、ヘムのようだ。
「恐れるものがなければ…」の問いには、仕事のこと、個人的なことなど様々なことが浮かんだが、「もっと自分の考えを、自信を持って表現したり、行動に移したりしたい」という思いを込めた。
参加者一人一人の思いを聞くことができたのはもちろん感慨深かったが、ファシリテーターからの、「あなたたちなら何でもできる、自信を持って。」という言葉が、とても心に響いた。「変わる」ことに対して、少し前向きになって、気持ちがすっきりした気がした。

プログラム名： Preparation for the Be the Change Experience （”Be the Change”への準備）
目的：翌日の”Be the Change”（地元 NGO への訪問プログラム）のための心構えと、グループメンバーでの打ち合わせ。
内容・手法 変化することの大切さを学んだ次のステップとして、実際に変化を経験した人の話を聞く。 サンガムはいくつもの地元の NGO やその他の団体（教育、女性エンパワーメント、環境、福祉、学校など）と連携を取った活動をしており、幸運にも私たちジュリエット・ローセミナーの参加者も、セッションの一部として、そのいくつかへ訪問することができた。 私はインド、ルワンダ、ヨルダンの参加者と、ファシリテーターのリディアー緒に”Green Tara Foundation”を訪問することになる。 サンガムのローカルスタッフより、それぞれの訪問先での留意事項を聞いた後（訪問先によってはセンシティブな課題に取り組んでいるところもあるため）、それぞれグループに分かれて、訪問先への行き方、スタッフの方への質問事項などの打ち合わせをした。

プログラム名：International Fair （インターナショナルフェア）
目的：参加者が自らの国や文化の紹介をし合い、国際交流を楽しみ、参加者の交流を深める。
内容・手法： ・地域ごとの出し物。内容は自由。 西太平洋地域：ガールスカウトのソング アジア太平洋地域：民族衣装のファッションショー アラブ地域：アラブ式結婚式 ヨーロッパ地域：Eurovision Song Contest のパロディー アフリカ地域：アフリカンダンス ・国紹介：持参した国紹介のグッズを展示し、お菓子、バッジ、クラフトなどスワップをした。
感想： セッションに追われていて、実は出し物の内容を考える時間はほとんどなく、即興に近かったものの、それぞれの地域の特色が出ていて、とても楽しく盛り上がった。

4 日目　2 月 12 日（木）

プログラム名：“Be the Change” Experience – Community program piece / visit to the partners （“Be the Change”体験－コミュニティーパートナー訪問）
目的：サンガムのコミュニティーパートナーを訪問し、実際に変化のための行動を起こした人たちの話を聞き、自分たちは何ができるか考える。
内容・手法： ・私が訪問した”Green Tara Foundation”は、2007 年に Dr. Manda が設立した、地域のスラムに住む子どもや若い女性をターゲットにした団体で、子どもには放課後教室、女性にはコンピューターやミシンの使い方の指導、早期結婚を防ぐためのカウンセリングを行うことで、女性のエンパワーメントを推進している。スラムに住む少女や若い女性は、貧血の割合が非常に高い。若い少女や女性のためのリプロダクティブヘルス教育やヘルスチェックを行い、保健に関する啓発も行っている。 （大きなドナーはイギリスの Karuna Trust という団体で、ウェブサイトから活動の様子見ることができる。） Green Tara Foundation の創設者の Manda Mune さんが活動先にいらっしゃっていて、実際に団体の成り立ちや活動の話をしてくださった。彼女自身とても貧しい家庭に生まれ、児童養護施設で過ごした経験もある。苦労しながら勉強を続け、医者になったのち、スラムの女性たちのために、NGO を作ったそうだ。医者を辞めてまで、NGO を作ることは彼女にとって大きな変化であったという。しかし、彼女の変化によって、たくさんのスラムの女性の人生も、よい方向に変化している。 Manda さんに話を伺った後、NGO でミシンの使い方を習った女性の話を聞くことができた。彼女の夫はあまり働かず、しかしながら彼女が外出することを許さなかったが、（女性は家で家事をしているべき、という伝統的な考え方がある）NGO に誘われて、ミシンを習うことでキルト作りができるようになり、自ら収入を得ることができるようになったそうだ。NGO の活動によって、彼女は自分にも変化が生まれ、自信を持つことができるようになったそうだ。
感想： 自身が「変わること」「挑戦すること」の重要性を学んだ次のステップとして、地域社会の課題に対して行動を起こし、ポジティブな方向に変化を起こそうとする人の話を実際に聞くことが出来て、このセッションも非常に印象に残ったとともに、考えさせられるものだった。 自分はマダガスカルで 2 年間、ボランティアをしていたことがある。自分なりに現地の課題を分析して、子どもの余暇活動や情操教育の充実を目的とした活動をしていた。 2 年間で自分が変わった部分、挑戦したこと沢山あるが、果たしてその変化がどの程度、周囲にプラスの影響を与えられたのだろうか、と振り返ってしまった。（もちろん、Manda さんの経験と比較すること自体が差し出がましいのだが） 変わることや新たな挑戦について、昨日のセッションではポジティブな見方をできるようになり始めていたところだったが、一方で、セミナーの最後に予定されているアクションプラン作成にどのように取り組んだら良いだろうか…と正直なところ少し迷いも生まれてしてしまった。

プログラム名：Debrief and Reflection from visit to the Community Partners （コミュニティーパートナー訪問の振り返り）

目的：コミュニティーパートナーで見聞きしたこと、感じたことを参加者同士が共有し、
自らのアクションプラン作成のヒントとする。

内容・手法：
午前中に様々なコミュニティーパートナーを訪問して感じたことを、以下の 3 つうち最も感情、印象の近いグループに分かれて話し合う。

1. Surprised
- どんなことに、どうして驚いたか
- （話を聞いて）どんなチャレンジや出来事が印象的だったか

2. Familiar
- 新たな発見はあったか、そこからどのようなエピソードやアイデアを自分の活動に生かしたいか

3. Inspired
- もっとも印象的なエピソードは何か、そのエピソードは自分自身が行動を起こす原動力になり得るか

感想：
私は”Inspired”のグループで話し合いをしたが、実際にコミュニティ活動に関わる人の話を聞けたことは、過去の自分の経験、またこれから、自分がどのように行動に起こすことが出来るかなど、様々なことを想起するきっかけになったと思う。

プログラム名：Action for Change Intro （変化をもたらすための行動　導入）

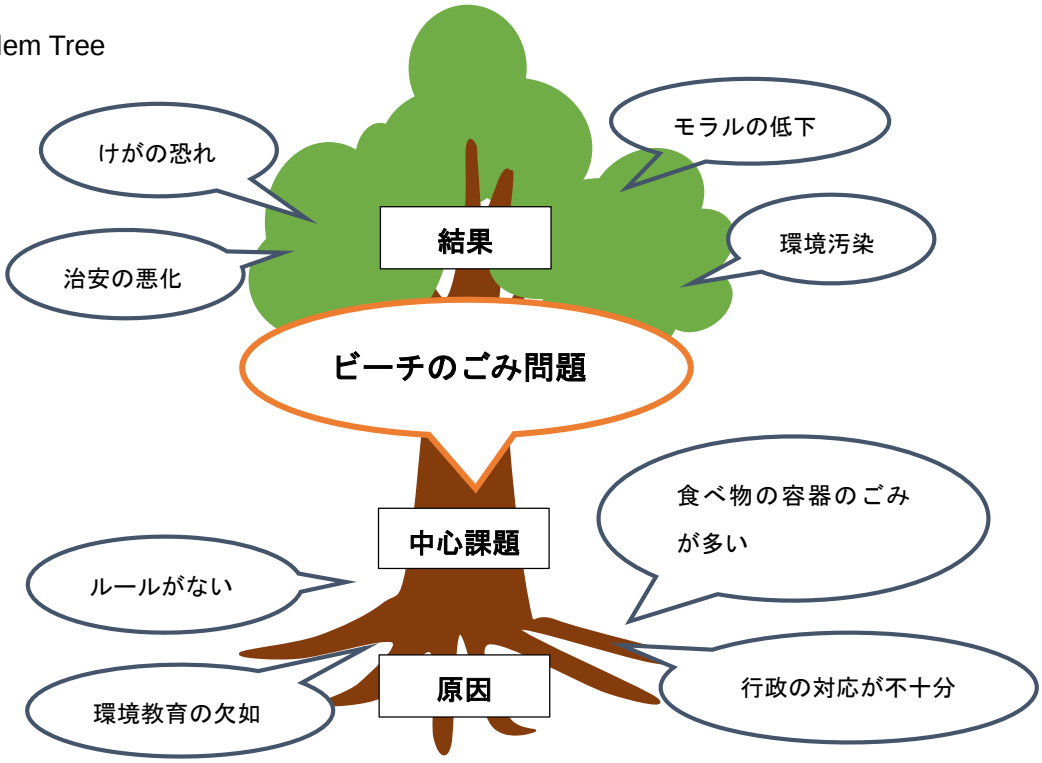
目的：
Dream – Dare – Do の 3 ステップのうち、今私たちは Dare の最終ステップにいるが、行動を起こすためには、どうしたらいいのか。ロジカルシンキングを使うことによって取り組みたい課題や問題を正しく捉える方法を学び、個人のアクションプラン作成に役立てる。

内容・手法：
・Problem Tree（プロブレム・ツリー）と Solution Tree（ソリューション・ツリー）を
かいてみる。
Problem Tree　＝　課題を整理するための木
ある課題を解決するためには…

1. 核となる課題の原因を洗い出す
2. その課題がもたらす結果を分析する

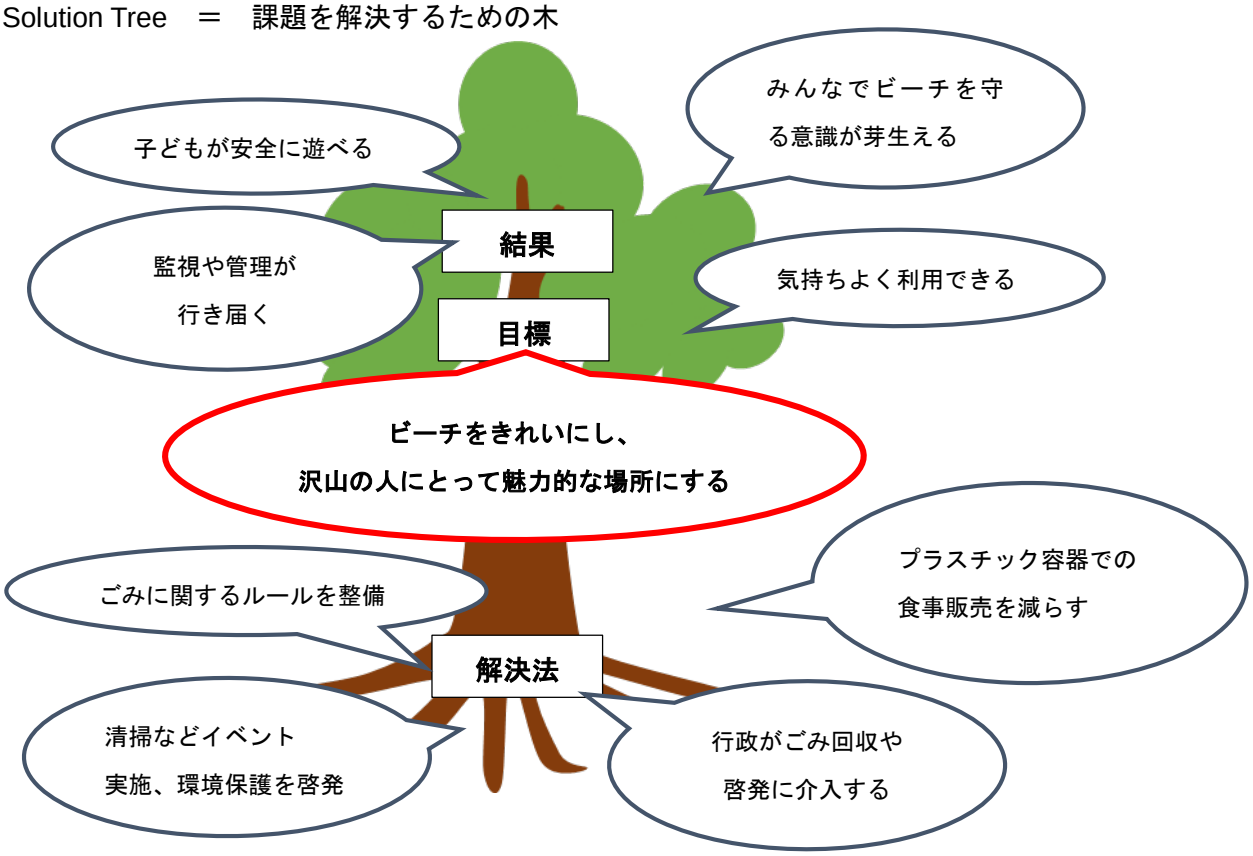
例）

Problem Tree



では、この課題を、具体的にどうやって解決に導くことが出来るだろうか…？

Solution Tree　＝　課題を解決するための木



→課題や因果関係を図式化することによって、相互関係が分かるようになる。 また、具体的にどんなことに取り組むべきかを整理することができ、より明確にすることができる。
感想： ロジック・ツリーに関して学んだことはあったが、このように、一つの物事を論理的に分析することは、プロジェクトを立ち上げたり、実行したりしていく流れにおいて、非常に有用であると改めて感じた。

5 日目　2 月 13 日（金）

プログラム名：Marketplace for Change –Change through Dialogue and Change thorough doing- （変化のためのマーケットプレイス －対話と体験を通じて変化する―
目的：セミナーのファシリテーターをはじめ、NGO スタッフや社会企業家などさまざまなキャリアや人生経験を持つ人々の”Change”をテーマとしたワークショップを通じ、アイデアやインスピレーションを得ることによって、参加者自身がどのように社会に変化をもたらすことが出来るか、考える機会とする。
内容・手法： 参加者にはあらかじめ下記の 10 のワークショップが提示されていて、1 人 3 つのワークショップを選んで登録していた。（太字 3 つが選んだもの） 1. Change through personal transformation （自己変革） **2. Change through the arts （アート）** 3. **Personal journeys of change （パーソナルジャーニー）** 4. Creating change through healthcare and influence of culture （ヘルスケア・文化） 5. Multi-media as a tool for change （マルチメディア） 6. Advocacy – using the UN & governmental systems for change （アドボカシー） 7. A Gandhian approach to education through change （教育） 8. Building an organization to bring change （組織） **9. Using social media for change （ソーシャルメディア）** 10. Social entrepreneurship in s developing country （社会企業家） ● Change through the arts ファシリテーター：Chhavi Goyal WAGGGS や AP、インド国内のガールスカウト活動もこなす彼女は、写真家としても活動している。 ・アートや写真の役割や効果→ユニバーサルランゲージ、癒し、感情を物語る、訴えかけるもの ・効果的な写真撮影のヒント→構成、距離、アングル、光を被写体や伝えたいことによって変える。 ・写真を使ったインドのコミュニティでのワークショップの一例の紹介 →Participatory Photography 最初にファシリテーターからカメラの使い方を参加者（コミュニティの少女たち）へレクチャー。 参加者はそれぞれカメラを持ってコミュニティへ行き、写真を撮影する。 撮影した写真を地域で展示する。

ねらい：
カメラを通じ、自分の周りのことを見ることで、自分を取り巻く社会問題や課題に気付き、他者にアピールする。
ギャラリーを開催することで、ポリシーメーカー、社会活動家、NGO、メディアなどへメッセージを提言することにつながる。

- Using social media for change

ファシリテーター：クリスタ（サンガムの副マネージャー）、コカ（JLS のファシリテーター）
SNS やホームページ、ブログなどのツールのそれぞれの特性を理解して、コミュニケーションツール、そしてアドボカシーツールとして有効活用するためのヒントを教えてもらった。
・スピード感、即時性が重要
・文章＜画像
・更新頻度
・必要な情報にアクセスするまでのクリックの数を減らす（リンクを貼る）
・シンプル、ベーシックなレイアウト、伝わりやすさが重要
・目的や対象に適しているツールを使い分ける（例えばサンガムの場合、ホームページ、Facebook、Twitter、Instagram、Mail Chimp を使用）
・ハッシュタグ(#)を活用する
・複数のツールを連動させる（Facebook と Twitter, Instagram など）
・ソーシャルメディアが社会を変える
例えば、「アラブの春」（2011 年ごろ、中東や北アフリカの国々で起こった民主化運動）
では、反政府運動の様子が Facebook や Twitter で世界中に情報共有された結果、民主化運動が数カ国で立て続けに起こった。
・ソーシャルメディア使用上の留意点
プライバシーや著作権、肖像権関連
・参加者やそれぞれの連盟でのソーシャルメディアの使用状況や、アイデアの共有

- Personal journeys of change

ファシリテーター：Maher スタッフ
Maher はプネーを中心に活動する NGO で、貧困や家庭内暴力に苦しむ女性や子どものシェルターを運営し、自助活動やエンパワーメントを行っている。
関わる女性達より、Maher 設立の苦労話や、活動内容、抱える課題に関して、また彼女
たちの人生に Maher の活動がどのように影響を及ぼすかなど、さまざまな話を聞いた。

感想：
どのワークショップも関心のあるテーマだったので、選ぶのは難しかったが、せっかくの機会だったので普段なら自発的には選ばないテーマを敢えて選んだ。
特に印象的だったのは、アートに関するワークショップである。アートにはあまり造詣はないが、と

ても参考になった。写真を使ったプログラムは、スカウトを対象にして活動の中で実践したら、彼女たちの問題意識や関心分野を知ることができて面白いのではないかと思った。個人的にとても嬉しかったのは、2013 年のアジア太平洋地域でボランティアをした際に出会ったチャヴィーと再会できたことだ。海外のガールスカウトの知人が、このように様々な分野で活躍しているのを垣間見ることができてとても誇らしい気持ちになった。

プログラム名：Documentary（ドキュメンタリー鑑賞）

目的：さまざまな課題に対して、変化を起こそうとする人々の姿を見ることで、私たちに何ができるか考えるきっかけとする。

内容・手法： ピュリッツァー賞を受賞した、ニコラス・D・クリストフとシェリル・ウーダン夫妻による全米ベストセラーの「ハーフ・ザ・スカイ―彼女たちが世界の希望に変わるまで―」を基にしたドキュメンタリーを野外シアターで鑑賞した。
この本は暴力、人身売買、名誉殺人、妊産婦死亡など世界各地の少女や女性に関する人権問題の現状をレポートしたフィクションである。その様子を世界各国で取材しながら、自分たちで少女や女性を救おうと 2 人は行動を起こしていく。
ドキュメンタリーでは、著者とともにハリウッド女優がそのような問題が顕著な地域に赴き、問題解決のために尽力している人々、被害者たちが立ち上がって行動を起こし、希望を持って生きようとする姿を紹介している。

感想：
話題になった本なので読んだことがあったが、スクリーンで見るのはさらにショッキングだった。
最初から最後まで時間の関係上見ることが出来なかったのが非常に心残りだったが、多くの参加者は鑑賞した感想や自分の国の状況（参加者によってはスクリーンで見たのと同じような状況が起きている参加者もいるため、日本も全く関係ないとは言えないと思うが）や意見交換をし合った。
参考）
日本版の DVD は発売されていないので、デリケートな描写やテーマも含まれるが、世界の女性の人権問題に関心がある方には、本を是非おすすめしたい。
・「ハーフ・ザ・スカイ―彼女たちが世界の希望に変わるまで―」
著者：ニコラス・D・クリストフ、シェリル・ウーダン　翻訳：北村陽子
出版社：英治出版

6 日目　2 月 14 日（土）

プログラム名：My Leadership Journey　（私のリーダーシップの旅路）
目的：セミナーで学んだことを振り返りながら、自分自身の将来像を思い描く。
内容・手法： ・リーダーシップの旅路をイラストで表現する。（川や山などに、イベントを書いていく） 今まで人生の中でリーダーシップを経験した出来事、重要な出来事、これからのビジョンなどを、1 人ずつイラストを描き、パトロールで共有する。 ・Transformation Trilogy　（変容のトリロジー） セミナーを経験して変わったこと、これからの自分を、変容のトリロジーで表す。 「チェンジリーダー（変化を推進するリーダー）になるために」 1. What we leave behind　（置いていくもの） 変わることへの恐怖心、ためらい ネガティブな考え、マイナス思考 ↓ 2. What we have now　（今持っているもの） 変わることへの勇気、ポジティブなイメージ 自分の強みと、強化する必要がある部分を知っている 変化を経験する体験をした ↓ 3. What we will become (Vision for ourselves)　（これからのビジョン） 更に自分に自信をもつ 積極的、活動的になる 他者とのつながりやネットワークを大切にし、活用する

プログラム名：Action for Change　（変化のためのアクション）
目的：セミナーの成果として、実際にアクションプランを作成する。
内容・手法： ・ワークシートが配布され、セミナー終了後に取り組むべき 1 人ずつ「アクションプラン」を作成する。 必ずしもガールスカウトに関連するものである必要はなく、個人的なキャリアに関連するプランでも構わない。 アクションプランのワークシートの内容： 1. プロジェクトのビジョン 2. プロジェクトのゴール

3. プロジェクトを遂行するために必要なアクションの目的
4. 必要な行動
5. 望まれる結果・反響
6. 必要なリソース・サポート
7. 開始日
8. 終了日

・発表
全員一人ずつ、作成したアクションプランの内容を発表。
それぞれ自国の連盟や所属先をベースに、リーダーシップ開発、アドボカシー活動に関連するプランが多かった。また自国の社会問題（人権、ジェンダー、教育）に取り組むようなプランなど、それぞれ様々な目標を立てることが出来た。
例）
・ガールガイドの地域の環境美化活動
・若い女性会員、地域の少女や女性対象のリーダーシップ開発プログラムの実施
・同年代の会員のネットワークを組織、整備する
・コミュニティの少女、女性を対象にした啓発活動（保健、リプロダクティブヘルスなど）
・仕事とガールガイド活動の両立

作成したアクションプランは、WAGGGS の e-learning、”GLOW”上で、参加者同士で共有されている。（本報告書巻末にサンプルあり）

感想：
個人ワークではあったものの同じような悩みや課題を持っている参加者と一緒に助言をしながら取り組むことができたことは、今後アクションプランを進める上でも心強かった。
欲を言えば、参加者全体で、アイデアを共有する時間がゆっくりあればよかったと思った。

プログラム名：Evaluation （評価）

目的：セミナーの締めくくりとして、セミナーで得たこと、学んだことや自分自身の変化を振り返り、評価を行う。

内容・手法：
・Learn（学び、得たこと）、Experience（経験したこと）、Apply（今後生かせること）をそれぞれパトロールで共有した。
・未来の JLS について
アンケートの一環として、今後の JLS をどのような形で開催したら良いか、パトロールごとに発表した。（開催地、セミナーの内容、参加対象）
パトロールごとにくじ引きで発表方法を決めたのだが、ニュース中継、インタビュー、プレゼンテーション、静止画、逆再生、世界連盟理事会、オペラ、とどれもユニークで、セミナーの最後まで笑い

声が絶えずに、最後のセッションが終わった。
感想： このセミナーを通じてポジティブな考え方ができるようになった、自分自身が変わった、というのが大多数の意見であった。 ファシリテーターからのメッセージの中で、「まずは、自分自身が自分のリーダーになりなさい」という言葉がとても印象に残っている。迷ったり、悩んだり、様々な経験をしながら、自分の価値観やビジョンをしっかり持ち、他人に少しでも影響を与えられる自分に近づけるように、この言葉を日々忘れないようにしたいと思った。

プログラム名：Closing Ceremony （クロージングセレモニー）
目的：セミナーの閉会をする。
内容・手法： ・ひとりずつ、半球に布を巻きつけて、マンダラを作る ・修了証とサンガムピンの授与。 ・WAGGGS スタッフのリディアより、プランニングチームのファシリテーターへ記念品贈呈 ・スライドショーの鑑賞 ・ソング ・閉会式の後は、キャンプファイヤーをして夜を過ごした。
感想： 長いようで、驚くほどあっという間にセミナーの終わりを迎えた。様々なセッションを通じて、世界中のガールガイド・ガールスカウトの仲間から沢山の事を学ばせてもらうことができ、とても貴重な経験になったとじみじみ感じた。 この日の夜に帰路につく参加者もいて、ばたばたとした別れになってしまった仲間もいたが、また、いつかどこかで再会できるのが楽しみでもある。

参加者所感

石塚　咲

スカウトの頃から、「いつか世界連盟のセミナーに参加したい」という思いはあったものの、いつからか「自分の能力では無理だろう…」と思うようになっていました。そんな気持ちからの参加だったので、ここからチャレンジが始まっていたように思います。

セミナーを通じて学んだこと、感じたことは様々ありますが、異文化交流を通じて自分自身を見つめ直すきっかけになったと思います。異文化に身を置くことに関してそこまで抵抗のない自分にとっても、世界 45 カ国からの参加者と、ここまで国際的な環境で過ごすことは人生の中で初めてで、その中で、自分の意見を十分に伝えきれず、非常にもどかしく感じる場面が度々ありました。特にヨーロッパ地域、アフリカ地域の参加者は、英語が第二言語ではあるものの、まるで第一言語のように使いこなす参加者も多く、言葉の壁を感じてしまったことも要因ですが、発言すること自体にためらってしまう自分に対しても、嫌な気持ちになることもありました。国際的な場面において、どんなに拙くても「私の意見を聞いて欲しい」、という意思表示をもっとできるようにならなくてはと痛感しました。

一方で、ディスカッションの時間を終えると、同世代の仲間同士、ガールガイドやガールスカウトの話、自国の話、キャリアの話などコミュニケーションをとることが出来たのは、自分の視野を広める意味でもとても良い経験になったと思います。こんなにもエネルギーに溢れた仲間が世界中にいるのだと思うと、自分自身がガールスカウト活動を続けていくモチベーション向上にも繋がっています。

今回自分がリーダーシップ開発に関するプログラムを経験し、日本でも WLDP 開催の実績はありますが、特に年長スカウトや若い年代の会員にもぜひ同じような経験をしてほしいと感じました。特にセミナーの”Dare”のパート、“チャレンジ”、“変化”のプログラムはとてもインパクトがありました。

また、セミナーに参加して終わりではなく、その経験を今後色々な場面で生かしていくことがとても重要だと感じています。

最後になりましたが、このような貴重なチャンスを与えて下さった日本連盟および神奈川県連盟の方々、初めての世界連盟行事への参加に際して疑問だらけの私に、メンターとしてアドバイスをして下さった遠藤トレイナー、いつも協力的に団外の活動に送り出して下さる神奈川県第 79 団の方々、またセミナーに参加したからこそ出会えたファシリテーターや参加者の仲間、サンガムスタッフに、心からのお礼を伝えたいと思います。どうもありがとうございました。

～明日に向かって～

神奈川県連盟　遠藤加壽子

今回、石塚さんが「ジュリエット・ローセミナー２０１５」に参加されるにあたり、お手伝いをさせていただく機会をいただきました。ずいぶん前になりますが、日本連盟からジュリエット・ローセミナーや、サンガムでの世界連盟行事に参加させていただいたことがあり、今回のメンターのお話をいただいたとき、とてもご縁を感じました。

メンターとしましては、できるだけ石塚さんが出発までリラックスできるようにすることを意識して、スケジュールに余裕を持って準備することをアドバイスいたしました。たとえば、航空券やホテルの早めの予約手配、セミナー内容の事前学習を早めに済ませること等です。

今回のセミナー参加にあたって、石塚さんは、リーダーシップ開発について多くのとても貴重な体験をされたことと思います。セミナー期間中はもちろんですが、日本連盟の代表としてインドへ一人で行って帰って来るということ、このことだけでも大きな発見や学びがあったのではないでしょうか。石塚さんの帰国後の報告会等からも、セミナー参加前の緊張や不安が消え、充実感にあふれた様子を感じました。

今回の参加を支えてくださった多くの方々に対する感謝の気持ちと謙虚な心を忘れずに、この貴重な経験をぜひ、明日からのガールスカウト活動に活かしていっていただきたいと思います。

PERSONAL PROJECT ACTION PLAN ／プロジェクトアクションプラン		My project vision is: ／プロジェクトのビジョン	Strengthen the network for young leaders in our council ／県連盟の若い成人会員のネットワークの強化	Satrt Date: ／開始日	After JLS ／JLS参加後	
Name: Country: Email:	Saki Ishizuka Japan	My project goal is: ／プロジェクトの目標	Young leaders can develop skil, knowledge, and leadership ／若い成人会員が自信のライフスキルやリーダーシップを開発できる	End Date: ／終了日	Year 2016	
Objectives ／目的	Milestones / Actions ／具体的な工程・行動	Result / Impact ／結果・反響	Resources and Support needed ／必要なリソース・サポート	Action start date ／開始日	Action end date ／終了日	✔
To tell my experiences of JLS ／JLSの経験を伝える	To have the opportunities to tell my experience of JLS to our council and especially young leaders and scouts ／JLSで学んだことを県連盟内、特に高学年のスカウト、若い成人会員へ伝える機会を持つ	Young leaders and scouts are able to become aware that they also have the opprtunities to take part in various kinds of events trhough girl scouting. ／対象者がガールスカウトの活動を通じ、様々な自己開発の機会があることに気付く	To ask our council to let me share the experiences of JLS in annual meetings, trainings etc. To find key person(s) who can help to take action ／県連盟での会議や研修で、JLSの経験を多くの人と共有する機会を設けてもらえるようにする プロジェクトに賛同し、協力してくれる人を見つける	After JLS ／JLS参加後		
To discuss the current situationand issue concerning young leaders with our council ／県連盟の若い成人会員の活動状況を知る	To share the ideas, what we can do, how to take action, etc for develoing the activities for young leaders ／対象者の活動を活性化させるためにできることを考え、共有する	Committee members of our council realize that the importance of activation of young leaders' activities ／県連盟のメンバーにこのプロジェクトの重要性を理解してもらう				
Preparation to launch the network for young leaders ／ネットワークを立ち上げる準備	Research - To know how young leaders take part in girl scouting currently, their motivation etc… Gather the leaders who can join in the network and work together as core person ／対象者がどのようにスカウト活動に関わっているかなどを調査する ネットワークに中心メンバーとして関わってくれる人を集める	Define a clear vision for the group ／ネットワークの共通目標や目的を定める	Communication, sharing ideas ／多方向とのコミュニケーション、情報共有			
To launch the network of young leaders and make it work ／ネットワークの立ち上げと維持	To provide opportunities to learn (e.g. leadership, life skills) ／学ぶ機会を提供する(リーダーシップやライフスキルなど)	We can share the issue what we are facing with, ideas with leaders of the same gereration ／同世代の対象者が抱える課題を共有し、前進する	Collaboration with other organisations (NGO, NPO etc…) ／他団体との連携（NGOやNPOなど）		Year 2016	

PERSONAL PROJECT ACTION PLAN ／プロジェクトアクションプラン Name: Country: Email:		My project vision is: ／プロジェクトのビジョン My project goal is: ／プロジェクトの目標		Satrt Date: ／開始日 End Date: ／終了日		
Objectives ／目的	Milestones / Actions ／具体的な工程・行動	Result / Impact ／結果・反響	Resources and Support needed ／必要なリソース・サポート	Action start date ／開始日	Action end date ／終了日	✔